



## PRESS RELEASE

岡山大学記者クラブ、文部科学記者会、科学記者会 御中

令和 5 年 6 月 2 8 日

岡 山 大 学

**海洋プラスチックの撲滅を目指して、カンボジア・水上集落の  
住民参画型プラスチックごみ分別に挑む！（中間報告）**

## ◆発表のポイント

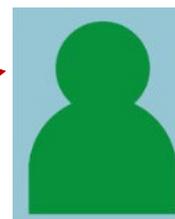
- ・海洋プラスチックの汚染を防止するためには、陸からのプラスチックごみの流出を止めなければなりません。このプロジェクトでは、カンボジア・トンレサップ湖の水上集落において、村全体の PET ボトル分別リサイクルを立ち上げるために、分別リサイクルシステムの提案、啓発教材の作成と説明会、村代表リーダー達に対する研修、そしてクリーンアップイベント開催を行ってきました。その経過を 7 月 12 日 13:00 から共育共創 commons (OUX : オークス) において報告致します。

海洋プラスチックの汚染を防止するためには、陸からのプラスチックごみの流出を止めなければなりません。ごみ収集がない水上の村では、プラスチックごみを集めてリサイクルまで行う必要があります。JICA 草の根協力事業「カンボジア・トンレサップ湖における水上集落住民参画型プラスチック汚染対策」では、昨年 3 月よりカンボジア・トンレサップ湖に浮かぶ水上集落であるパットサンディ・コンミュン（村の集まり）において、全村あげての PET ボトル分別リサイクルを立ち上げるための支援を行ってきました。これまでに、ごみ分別リサイクルシステムの提案、啓発教材の作成、市民への分別説明会、村代表リーダー達に対するカンボジア国内での研修、そして世界環境デーに向けたクリーンアップイベントの開催を実施しました。その結果、研修に参加したリーダー達が動いて、ごみ分別リサイクルのための運営組織を作ることになりました。これから本格的なごみ分別リサイクルが始まります。

JICA プロジェクトチームは、2023 年 7 月 12 日 13:00 から共育共創 commons (OUX : オークス) においてわれわれがこれまでにを行った活動の経過と今後の予定について詳しく報告致します。

## ◆研究者からのひとこと

カンボジア・トンレサップ湖に何度も足を運び、現地のリーダーや市民の方々と触れ合いました。一緒に、処分場を見学したり、資源ごみの買取業者へヒアリングしたり、同じものを食べたり、ミーティングをする中で、村のリーダー達はプラスチックごみの問題やその対処を真剣に考えているのだとわかりました。また、クリーンアップイベントでは 100 名を超える多くの市民が参加してくれましたが、約半分ぐらいは学校の子供たちでした。村の中に散らばっているプラスチックごみを熱心に集めてくれました。子供たちの笑顔が素晴らしかったです。みんながこの問題について認識しているものの、解決するためのきっかけや良い方法がないこと、実現のために強いリーダーシップが必要なことが良くわかりました。



藤原教授



## PRESS RELEASE

### ■発表内容

#### <現状>

太平洋の海洋プラスチック汚染の原因の1つに、アジア諸国から多くのプラスチックごみの海洋へ流出があります。アジア最大の湖であるトンレサップ湖はカンボジア王国の中央にあり、百万人とも言われる人々が水上に集落を作って暮らしています。そこでは行政によるごみ収集サービスが無いため、ごみは湖に捨てられています。そして、雨期に水量が増えると、捨てられていたごみが下流に流されていきます。このような集落でプラスチックごみのリサイクルを推進しようと考え、当JICA 草の根協力事業「カンボジア・トンレサップ湖における水上集落住民参画型プラスチック汚染対策」が昨年2022年3月に立ち上がり、それを同年6月の定例記者発表で発表しております。今回は活動の中間報告をさせていただきます。

#### <活動の内容>

##### 1)ごみ分別リサイクルシステムの提案

パットサンディ村の家庭から出されるプラスチックごみ量を調べるために、複数の家庭にプラスチックごみを1週間ためてもらい、排出量と種類の調査を行いました。また、プラスチックごみ問題についての村人への意識調査、資源物買取業者への引取価格についてヒアリング調査を行いました。その結果を踏まえて、村全体が分別をした場合に収集できるPETボトルの量を算出し、その収集方法を検討するとともに、資源化による村の収益を評価しました。(資源化の対象をPETボトルとしたのは、すでにリサイクルルートが確立されているからです)



写真1 プラスチックごみ組成調査と収集輸送距離計算

##### 2)啓発教材の作成

プラスチックごみの「知識」、環境への懸念の「認識」、分別参加への「意識」を高めるための啓発教材を作成しました。この啓発教材は大人用ですが、学校の授業で使える子供用の啓発教材を現在作成中です。また、村民に対して説明会を開催し、プラスチックごみ分別リサイクルの必要性やPETボトルの出し方のマナーについて説明しました。



## PRESS RELEASE



写真1 村民へのプラスチックごみ分別リサイクル説明会

### 3)パットサンディ村代表リーダー達に対するカンボジア国内での研修

分別・リサイクルが持続可能であるためには、村のリーダー達が団結してプラスチックごみ分別の必要性を村民に訴え、村全体で実践してゆく必要があります。

そのため、村や漁業コミュニティからの代表者7名に集まってもらい、カンボジアで5日間の現地研修を行いました。研修では JICA 事業の説明や啓発教材を使った学習などの座学と近隣市のプラスチックごみの収集活動やリサイクル業者への訪問インタビューを行いました。そして、パットサンディ村全体で PET ボトルの分別リサイクルを立ち上げるための仕組みについてディスカッションを行いました。



写真2 現地研修でのディスカッション風景

### 4)世界環境デーに合わせたクリーンアップイベントの開催

プラスチックごみに対する問題意識を高め、分別リサイクルの必要性を認識するために、パットサンディ村でクリーンアップイベントを開催しました。100人以上の参加者を集め、啓発教材について説明し、手袋やごみ袋などを配布し村に散乱したプラスチックごみの回収を一斉に行いました。短時間のうちに多量のプラスチックごみが集まり、捨てられたプラスチックごみの多さを実感することができました。このイベントには多くの学生たちが参加してくれていて、集めたプラスチックごみの選別に協力してくれました。



## PRESS RELEASE



写真3 クリーンナップに集まった人々と協力してくれた学生さん達

※写真は転用禁止でお願いします。

### ■研究発表等

論文名： Plastic waste composition analysis for floating villages in Tonle Sap Lake, Cambodia

会議名： 3RINCs(The 3R International Scientific Conference on Material Cycles and Waste Management),  
13 March, 2023

著者： Sakinah binti Abdullah, Habuer, Takeshi Fujiwara, Vin Spoann, Chandara Phat, Makoto Tsukiji

DOI:

発表会プログラム <https://www.3rincs.org/>

### ■研究資金

本研究は、JICA の支援を受けて実施致しています。

名称：草の根協力事業「カンボジア・トンレサップ湖における水上集落住民参画型プラスチック汚染対策事業」(草の根協力型)

期間：2022年3月～2024年4月

#### <お問い合わせ>

岡山大学大学院環境生命自然科学研究科

附属低炭素・廃棄物循環研究センター

教授 藤原健史

(電話番号) 086-251-8994 (FAX) 086-251-8994

